



発行：秋田県立聴覚支援学校内 きこえとことば支援センター

**聴覚支援学校創立110周年記念講演 講師 宮城教育大学 教授 松崎 丈 氏  
演題 「自分を助ける生き方を研究しよう」**

『人間は、どれほどみじめな条件や状況にあっても、なんらかの意味を見出すことができる。』  
これは、オーストリアの精神科医フランクルの言葉です。聴覚障害のある私が、学校や大学で差別や排除を受けても、今、前向きに生きていられるのは、自分の苦しい思いを受け止め、心配してくれた人の存在が「苦しいなかでも生きる意味を考えよう」という気持ちをもたせてくれたからです。そして、そこから、自分を助ける研究を続けていくことができたからだと思っています。

聴覚障害のある皆さんは、困りごとを友達や両親、先生方に話していますか。皆で困っていることを出し合い、解決方法「自分を助けるわざ」を一緒に考える時間をぜひつくっていきましょう。解決策が見つからなくても、話をする中で、大事なことに気付くかもしれません。お互いに困りごとを分かち合えたなら、苦しい道のりの中に、新たな希望を見出し、生きていくことができるのではないかと考えています。



〈本校の生徒の感想より〉



- 自分のわざを考えることが、自分に合った生き方を考える機会になると気付くことができました。
- 困りごとを話してもよいという安心感が湧きました。



**当事者研究の書籍紹介**

松崎先生のご紹介です。

- ◇先生向け 「特別な支援が必要な子たちの「自分研究」のススメ:子どもの「当事者研究」の実践」  
熊谷晋一郎 (監修), 森村美和子 (著) 金子書房 (2022年発行)
- ◇生徒向け 「子ども当事者研究 わたしの心の街には おこるちゃんがいる」  
子ども・子育て当事者研究ネットワーク ゆるふわ (著) コトノネ生活 (2022年発行)

**進路先での難聴理解研修の取組**

10月12日(水)に本校高等部専攻科生徒が就職予定の秋田マテリアル株式会社さんより依頼を受け、「聴覚障害の基礎的な理解について」と「難聴疑似体験」の内容で難聴理解研修を行いました。社員の方は、昼休みの時間を割いて各職場から参集してくださり、熱心に研修を受けられていました。新入社員として迎え入れてくださる温かな気持ちが伝わってくる研修会でした。今回研修をさせていただき、今後も各事業所での研修を進めていく意義と必要性を感じることができました。

《参加者の感想から》

今回説明を受けて本当に良かったと思いました。聴覚についての説明を受けるのと、受けないのでは、Aさんへの接し方が全然変わると思います。接し方を工夫するだけで、障害をもった方が、幸せや安心を感じてくれれば、こちらも幸せを感じられると思います。

疎外感、分かったふりをした方が面倒くさくない、母音が同じだと理解しづらいなどの心理的な部分と物理的な部分を知ることが出来ました。ジェスチャーや文字等、最大限自分で出来ることをし、互いに成長し合える仲間になりたいと思います。この度は誠にありがとうございました。



# 「耳マーク」って知ってる？

## ～耳マークカード贈呈式～

11月17日(木)、秋田県難聴者・中途失聴者協会の皆さんが来校し、聴覚支援学校児童生徒に「耳マークカード」を贈呈していただきました。「耳マーク」というのは目の不自由な人の「白い杖」や身体が不自由な人の「車椅子マーク」などと同様に、聞こえづらい人が「耳が不自由です」と自己表示するためのマークです。

永井慎吾会長は「この耳マークを提示すると、こちらから説明しなくても、周囲の人が理解して必要な配慮をしてくれます」と、実体験に基づいた「耳マーク」の有用性を教えてくださいました。

また、「仙北市(田沢湖・角館・西木)耳マーク観光マップ」も寄贈していただきました。秋田県有数の観光エリアにある「耳マーク設置・筆談対応施設リスト」や「指さし会話コミュニケーション」(指さしして自分の希望を伝える文字一覧)などが紹介されている、実用的な観光マップです。(「田沢湖・角館・西木耳マーク観光マップ」で検索すると、スマートフォンでも見ることができます)



協会からは「何か困ったことがあったら、いつでも私たちに相談してほしい」という心強いお言葉をいただきました。

「手話は勉強中です」という永井会長。この日は要約筆記者の通訳でスムーズにコミュニケーションが進みました。

耳が不自由です



お手数ですが  
筆記して下さい



## 冬の補聴器・人工内耳管理



☆補聴器に使用する空気電池は、乾燥や二酸化炭素に弱く、冬は夏と比べて持ちが短くなります。長持ちさせるには、石油ファンヒーター等を使用している部屋では換気を定期的に行ったり、補聴器から電池を外したときは、空気孔にシールを貼って保管したりしましょう。また、寒いところでは発電の力が弱まるので、手で温めてから補聴器に入れるとよいでしょう。



☆冬場は暖かい室内と寒い屋外の温度差によって結露が起こります。結露でチューブやイヤモールドに水がたまると、聞こえにくくなったり故障の原因になったりする場合があります。また、雪で補聴器や人工内耳が濡れてしまう場合もあります。結露や雪で濡れてしまったときは、しっかりと水分を拭き取り、乾燥させましょう。乾燥のためにも、外した補聴器や人工内耳を失くさないためにも、外出する際は乾燥剤の入ったケースを持ち歩くことをおすすめします。

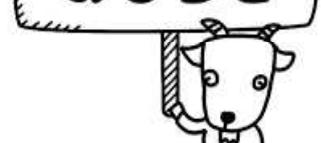


☆補聴器は水に弱いですが、熱にも弱いです。暖房の近くや日差しで高温になる窓辺などに置かないよう気を付けましょう。また、人工内耳は静電気に弱く、データが消えてしまうことがあります。静電気防止グッズや加湿器を上手に使用して、静電気を予防しましょう。



不具合にすぐに対応できるようにするためにも、普段から補聴器や人工内耳の聞こえ方を確認しておくことが大切です。

## お知らせ



### 手話学習会④

日時：令和5年1月12日(木) 10:30~11:15  
会場：聴覚支援学校

習熟度に応じて3グループに分かれて学習します。  
参加希望の方は、電話、FAX、メール等で、きこえとことば支援センター小松までご連絡ください。

